

京都芸術劇場ニュースレター

vol.9
2008.7

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

《朗読オラトリオ》ポール・クロードル Ⅱ 作 渡邊守章 Ⅱ 訳・構成・演出

縹子の靴

あるいは最悪かならずしも定かならず
— 四日間のスペイン芝居 — (抄)

2008年7月6日(日) 12時30分開演

7日(月) 19時30分開演(ハイライト版)

8日(火) 18時開演

開場は各開演の30分前

会場 京都芸術劇場 春秋座

料金(全席指定前売) 一般3000円 学生&ユース2000円 シニア2500円

※当日各500円増し

キャスト 野村万作(人間国宝) 7・8日特別出演

野村萬齋 後藤加代 平栗あつみ 渡邊守章

小田豊 錦部高寿 田原正治 吉見一豊

石井英明 瑞木健太郎



野村 万作



野村 萬齋

二〇世紀フランスの最も重要な作家・劇詩人であり外交官であったポール・クロードル。彼が日本滞在中に著した長編戯曲『縹子の靴』は、四部に渡る壮大な作品で、全曲上演すると一〇時間以上はかかると言われている。

今回の公演は、二〇〇五年に好評を博した渡邊守章訳・構成・演出の全曲版「オラトリオ」を踏まえつつ、『言葉の姿』が鳴り響き、立ち現れる実験的な上演だ。

『縹子の靴』は難しいところもありますが、「世界をまたにかけた大すれ違いメロドラマ」とてもいうべき内容で、芝居としては実に面白いものです。

八〇年代にアントワーン・ヴィテースがアヴィニョン演劇祭で「全曲版」を徹夜上演し、最近ではオリビエ・ピイがパリで全曲版を上演しました。私も見ましたけれど、長時間なのに途中で帰る人がほとんどいないんです。でも、私の方がきつと面白く演出できると、ずっと思っていた作品でもあります。

今回は、抄録版の「オラトリオ」形式で上演します。「オラトリオ」とは、文楽の「素浄瑠璃」に近いもので、浄瑠璃では「足取り」と言いますが、セリフ運びや全体のリズムを掴み切らずに訳すの意味がないことです。仏語と日本語では文法が違うから直訳とはいきませんが、それでも二行のものは二行に情報を入れる。実はこのような戯曲の翻訳は、みんなやっていないんですよ。私は定型韻文の翻訳をやってきたから訳せるのだと思います。言葉の息遣いや意味を理解していることが重要です。比喩的に言えば音楽構造が分っているだけでもいいですか。

私が翻訳で、常に心がけているのは声に出して読めるようにすること。ですが、今の日本の演劇のように言葉を蔑ろにしていると、役者が言葉にモチベーションを持って演じることが難しくなりますね。そういう意味では今回の役者は言葉に力がある方ばかり。万作さんは観世寿夫さん、榮夫さんらと結成した「冥の会」以来からですし、萬齋君は彼が二〇歳の時からの付き合いで、最近では演出もやるようになっていっているから、今回どのようによってくれるか楽しみです。また後藤加代さんは声に存在感がありますし、小田さん、錦部さんも個性があつて素晴らしい。ぜひ、そんなところも見ていただきたいです。

(舞台芸術研究センター所長代行 渡邊守章談)

日韓共同制作プロジェクト

デイクテ

2008年9月19日(金)ー21日(日) 予定

会場—— 京都芸術劇場 studio 21

料金—— 未定

企画—— 松田正隆 八角聡仁

構成・演出・美術—— 松田正隆

キャスト—— 牛尾千聖 内田淳子 岸部孝子

キム・エリ 桐澤千晶 窪田史恵

シン・ソンヒ 高橋理恵子

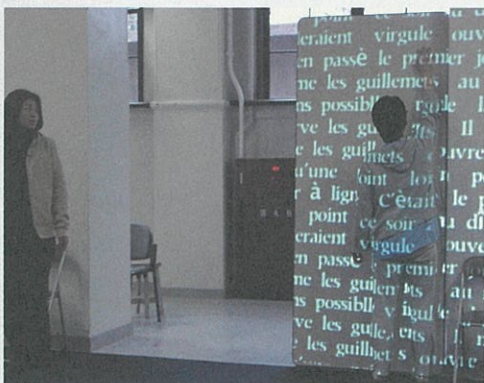
武田暁 チョン・ヨンドウ (五〇音順)

テキスト—— テレサ・ハッキョン・チャ『デイクテ』

日本語版 池内靖子訳

韓国語版 キム・キョンニョン訳

舞台芸術研究センターは、「アジアの比較演劇学」という研究領域において、特に日韓の舞台芸術の関係を焦点を当て、より深く綿密な共同研究、共同制作を進展させてきた。『デイクテ』はその中心的な事業である。日韓の間には友好的な交流のみならず、歴史的、政治的にさまざまな葛藤や軋轢が存在するが、具体的な共同作業の中でそれをどう受け止め、何を共有していきけるのかが問われなくてはならない。単に外交儀礼的な文化交流や、予定調和的にナショナル・アイデンティティを確認しあう儀式に終わるのではなく、むしろそうした枠組みそのものを再検証し、国家や民族に関する規範や観念を問いなおしながら、言語と身体、歴史と記憶、政治とジェンダー、等々をめぐる現在の私たちの問題を演劇を通して考察し、差異や亀裂を含んだ上でお互いを照らしあうような共同作品を創りあげることが目指している。



稽古風景

作品『デイクテ』の背景

『デイクテ』の著者テレサ・ハッキョン・チャはアメリカにおけるアジア系女性性を代表するアーティストとして、映画、ビデオ、写真、詩、批評造形作品、インスタレーション、パフォーマンス、アート、メール・アートなど、多様な形式の作品を遺した。『デイクテ』は成長の過程で、複数の言語ジェンダー、植民地といった環境を経験してきた著者の自伝的なエクリチュールである。彼女の作品は、八〇年代後半から米国文学研究や批評の中で、カルチュラル・スタディーズやディアスポラ研究、アジア系アメリカ人研究、ジェンダー・スタディーズといった視点から研究者の中で論じられ、多くの問いを発してきてきた。日本では九〇年代に研究者の中でテキストが紹介され、韓国では九八年に韓国語版が出版された。その後、韓国では『デイクテ』をもとにした劇団MITHOSによる公演(オキギョンスク演出)が行われ、同作品は〇三年に立命館大学で上演されている。



松田 正隆

『デイクテ』を知ったのは五年前。その頃は内容について、あまりよく分からなかったんです。興味が無かったのではなく、自分と距離があるというか、遠い感じがしていました。その頃、自分の演劇集団「マレビトの会」の活動をする中で、俳優が舞台上で書かれた文字を発することに非常に興味を持つてきたんです。元々、声は息だし、息を肺に入れて呼吸をしながら外へ出した時に、言葉となって人と共有することができる。そういう言葉になる前の、息が声になる様子を舞台上で見てみたいと。そんな時、そういう発話に関することを色々と言っていた書物があったと『デイクテ』の事を思い出したんです。再度読むと、母語と違う言葉を発する時、身体が軋み途切れがちになるということが書かれている。それと舞台上における発話の問題が繋がった感じがしたんですね。そこで発話する時の身体のあり方を、このテキストでもう一度、問題にしたいと思っただけです。

難しいのは、テレサの来歴が様々な形で本に現れていること。一家が韓国軍政を逃れ、アメリカに移住する中で確立されたきたものを、平和ボケした日本で表現するのは安易ではない。そういう題材との距離感も問題になっていくでしょうね。我々に、批判的な視線を送り込む事にもなれないなと思っっています。

今回は日韓の俳優が出演しますが、共同プロジェクトとはいえ、互いの文化やアイデンティティを確認し合うというものではありません。テレサは亡命先から故郷や自己の存在意義を問い続けざるを得なかった。ゆえにアメリカ人やフランス人にも意味を持つ作品でなくてははいけないと思っっています。

今回は、自分の脚本ではなく他の人のテキストを使うので、私にとって挑戦といえは挑戦ですね。しかも役者も誰かの人格を演じるわけではないので、俳優自身の存在も問われることになる。そんな意味でも面白い作品になると思います。

(舞台芸術研究センター主任研究員 松田正隆談)

みやこで義太夫を楽しむ

2008年7月5日(土) 13時30分開場 14時開演

会場——京都芸術劇場 春秋座
 前売料金——一般3000円 学生&ユース1000円
 京都芸術劇場友の会2700円 ※当日各5000円増し

義太夫節は江戸時代に人形と結びつきながら人形浄瑠璃(文楽)の劇音楽として発展してきました。今回は、語り物としての義太夫節に注目し、太夫と三味線の演奏による素浄瑠璃をお楽しみいただきます。

プログラム

対談「義太夫を楽しむ」 竹本綱大夫(聞き手 田口章子)
 演奏「堀川猿回しの段」(『近頃河原の達引』より)
 「前半」
 浄瑠璃 豊竹呂勢大夫 浄瑠璃 竹本綱大夫(人間国彦)
 三味線 鶴澤清治(人間国彦) 三味線 鶴澤清二郎
 ツレ 鶴澤清志郎 ツレ 鶴澤清志郎

あらすじ——祇園町の遊女お俊は井筒屋伝兵衛と相愛の仲。横恋慕の武士を殺してしまったことでおたずね者になった伝兵衛に殉ずるため、死のうと覚悟している。堀川に暮らす老母や兄の与次郎はお俊を伝兵衛と別れさせようと考えていた。ひとりで死ぬ覚悟の伝兵衛、「そりや聞こえませぬ伝兵衛さん」と泣きとくお俊。愛の深さを知った母は苦惱の末、心中することを許す。兄の与次郎は悲しい門出を猿廻しで祝ってやる。ふたりは聖護院の森へと落ちていく。



竹本 綱大夫



鶴澤 清治

上方和事研究会 シンポジウム+実験上演

元禄期初代坂田藤十郎の和事舞台復活

2008年9月23日(火・祝) 13時30分開場 14時開演

会場——京都芸術劇場 春秋座
 料金——1000円



坂田 藤十郎



中村 翫雀

公開シンポジウム
 『夕霧七年忌』上演をめぐる

パネリスト 坂田藤十郎(人間国彦) 中村翫雀 諏訪春雄 藤舎呂船
 田口章子(司会進行)

『夕霧七年忌』

監修 坂田藤十郎/脚本 諏訪春雄/舞台音楽監修 藤舎呂船/
 主演・演出 中村翫雀

舞台芸術研究センター主任研究員の田口章子(本学教授)を中心に立ち上げた上方和事研究会では、上方和事の研究と元禄時代の藤十郎の和事復活をめざし、研究会をかさねてきました。三年間の研究成果をもとに研究者と実技者との共同作業で初代坂田藤十郎の幻の舞台を復元します。

まず、公開シンポジウムでは、『夕霧七年忌』の監修をつとめた歌舞伎俳優坂田藤十郎、演出・主演の歌舞伎俳優中村翫雀、舞台音楽監修の六世家元藤舎呂船、学習院大学名誉教授諏訪春雄をパネリストにむかえ、『夕霧七年忌』舞台化の復元過程についてそれぞれの視点から研究成果を発表します。

実験上演『夕霧七年忌』は、中村翫雀と一門による元禄上方和事の舞台化です。遊女狂いで勘当の身となった伊左衛門が、亡くなった恋人夕霧の七年忌に、ふたりの間にできた娘おせきを廊に売って借金を返済しようとする筋。登場人物のすべてが互いに相手を思いやる、しみじみとした情感が舞台を支配します。

元禄和事の復元は単なる復古作業ではありません。現在の歌舞伎が無くしてしまつた

- ①「型」成立以前の役者の創意・工夫・演技
 - ②三味線のリズムに支配される以前の日本人の身体・生理のリズム
 - ③江戸人・東京人による一元支配以前の上方人の発想・情緒
- などの掘り起こしを通して、日本文化の失われた半身の可能性を明らかにします。

舞台芸術研究センター主任研究員 田口章子

幻のバリ舞踊とガムラン

ジヨゲツ・ピンギタン

—最後のレゴン—ニ・クトゥット・チュニツク

2008年9月13日(土)

13時30分開場 14時開演

会場——京都芸術劇場春秋座

料金——一般3500円

学生&ユース席(範囲指定あり)1000円

京都芸術劇場友の会・シニア3000円

主催——京都造形芸術大学・バリ芸能研究会

企画制作——バリ芸能研究会

助成——文化庁 ※平成20年度国際芸術交流支援事業

外務省「日本インドネシア友好年」認定事業

【演目】 チャロナラン、チヨンドン・レゴン 他

【出演】 ニ・クトゥット・チュニツク、

ニ・ワヤン・スカリアニ 他



ニ・クトゥット・チュニツク

写真提供：バリ芸能研究会/TPC-AF

バリ島中部ギャニアール県は、バリの中でも古くから芸能がことに盛んな所です。地域ごとにそれぞれが誇る伝統舞踊やガムランがあり、王国時代には地方領主(豪族)が競って芸能を保護し育ててきました。

その中でも、ひととき異彩を放つのが、「ジヨゲツ・ピンギタン」。パトゥアン村で行われるこの舞踊は、バリではほとんど見られない女性の独り舞で、ただ一人の踊り手が物語を次々と役柄を替えて演じ分ける、という、きわめて特異な要素を持つています。

いま、その最後の継承者ともいうべき踊り手、それが今回、来日するニ・クトゥット・チュニツクです。八〇歳を超えてなおカクシヤクと現役で踊り続けているレゴン(踊り手)とその一団が、二〇〇八年日本インドネシア国交樹立五十周年にあたり、日本ではほとんど知られて来なかった幻のバリ舞踊とガムラン「ジヨゲツ・ピンギタン」の真髄を披露します。



ニ・ワヤン・スカリアニ



ニ・ワヤン・スカリアニ

響きeyeコンサート

2008年7月19日(土)

13時30分開場 14時開演

会場——京都芸術劇場春秋座

料金——一般 5000円

小学生 3000円

出演——喜恵・クレインズ舞太鼓・恵・恵炎



和太鼓教室の受講生や、和太鼓教育センターに所属している和太鼓チームの演奏会です。また、この演奏会は四月から七月までの和太鼓教室の修了発表会でもあります。エネルギーあふれる太鼓の響きを是非お楽しみください!

【主催・問合せ先】
京都造形芸術大学 和太鼓教育センター
電話 075-791-9145

『かな手本忠臣蔵』

2008年9月17日(水)

13時30分開場 14時開演

会場——京都芸術劇場春秋座

前売料金 一般S席4500円 A席4000円

学生&ユース席(範囲指定あり)2000円

※当日各5000円増し

京都芸術劇場友の会

前売S席4050円 A席3600円

当日S席4500円 A席4000円

出演——伊吹吾郎・竜小太郎・仁科仁美・沢竜二 他

第一幕 祇園一力茶屋の場 第二幕 小田原本陣の場

※各幕前に落語家林政正進によるお話あり

『忠臣蔵』は、二五〇年以上も日本人に好まれ、受け継がれてきた名作中の名作ですが、この舞台ではその所以を凝縮してご覧いただく為に、この作品のテーマである武士道の精神がよく表されている場面を取り上げます。



時には身内に対してもあくまで本心を隠し通し、いかにして江戸まで東下するのか、大星由良之助役(伊吹吾郎)の「腹芸」が何よりのみどころです。

【主催・問合せ先】
日本伝統芸能振興会関西支部
電話 06-6574-6911

(京都芸術劇場2008年度プログラムは、主に、京都造形芸術大学主催(芸術監督・劇場企画運営室)および舞台芸術研究センター主催によるものです。)

私が初代芸術監督市川猿之助さんの意志を継ぎ、二代目芸術監督になって四年目。今年も様々な企画をお送りしていきます。

五月、トークショー『猿之助の世界第四章―市川猿之助と女形―』では市川笑三郎さんを迎え、師匠猿之助さんのお話をたっぷり伺いました。たくさんのお客様と熱気あるトークを行えた事…感謝です。来年冬には「猿之助の世界第五章」を開催しますので、乞うご期待！六月に開催した「ATG Film Exhibition」は三回目、そして最終回を迎えました。日本映画界に革命を起こした「ATG」…その中心におられた葛井欣士郎さんを再び春秋座に迎え、本学教授達と行なった対談は、情熱を持って活動する学生達にとって大きな刺激になったことでしょう。

今後の公演といたしまして、十月には恒例の『モーリ・マスク・ダンス』があります。今回は過去七回の公演を再構成し、フアッションショー形式で表現します。「コラボレーション美学」を基にマスク/衣装/動作で創る情熱空間…それは観客との交流から生まれる「感動」体験です。十二月は「モーリ・フアッション・インスタレーション」featuring GUT'S DYNAMATTE CABARETS』を開催します。本学卒業生でもある「GUT'S DYNAMATTE CABARETS」は、その活動に大きな注目を浴びています…女性の服も男性モデルが表現する…まさに歌舞伎の世界…春秋座に相応しい舞台空間になるでしょう。

本年度も芸術監督プログラムを含め、劇場では多数の公演が行われます。皆様にとってより身近な劇場になりますよう努めていきたいと思っております。夢と感動のある、そんな空間を皆様と共有できればと切に願っております。



京都芸術劇場 芸術監督
毛利 臣男

京都造形芸術大学 京都芸術劇場は、単に大学のなかにあるホールではありません。『劇場をもつ大学』として、大学の研究・教育と有機的に結びついて運営され、機能すべき劇場です。この基本理念を活かすべく、舞台芸術研究センターは、幾つかの研究テーマを立て、それと密接にかかわり、あるいはそれを更に新しいテーマへと発展させていけるような舞台芸術の上演企画を立て、それを実現しています。この三年間は、「伝統の越境性」「地域文化と芸能」「アジアの比較演劇学」「身体・メディア・テクノロジー」の四本柱を軸に、企画を立て、実現しています。

たとえば、三月に公演した空中庭園能ジャンクション『當麻―折口信夫《死者の書》による』は、「越境する伝統」についての舞台と言説の双方からのアプローチとして高く評価されました。『恋する虜―ジュネー身体―イマージュ』は、ダンスとテクストと地政学から、現代の最も深刻な戦いの地域と、二十世紀の最も過激な作家との《共振》に問いかける大胆な冒険でした。このセンターの舞台創造と研究の強みを一言で言えば、企画者が、いずれも個別研究や個別ジャンルの狭い枠に閉じこもらず、他領域、他分野と、積極的な共同作業が出来る多重的な発想と、柔軟なフットワークを備えていることです。

五月の創作能『薔薇の名―長谷寺の牡丹』も、七月の『朗読オラトリオ《繻子の靴》』も、私の専門とする二十世紀フランス最大の劇作家ポール・クロデルの作品への問いかけてですが、単なる一方通行的な《読み》ではなく、常に自分の立つ《伝統》とその《外部》との相互的な《問いかけ》に貫かれた作業であり、正しい意味における《グローバル化》の実験だと信じています。



舞台芸術研究センター 所長代行
渡邊 守章

* 浅田彰、松浦寿輝両氏と私の鼎談は『新潮』七月号に掲載されます。

私は八年前、京都芸術劇場開設準備室長として本学に赴任致しました。それから四年間、柿落し後は、劇場企画運営室長とプロデューサーを勤めさせていただきました。その後職を離れ、神奈川県にある音楽大学でアートマネジメントの授業を持ちつつ、オペラ劇場の開設に携わってまいりました。幸いにも歌舞伎劇場とオペラ劇場両方の開設に関わったことで改めて春秋座の素晴らしさを見直していただきました。折も折、本学からもう一度戻って来いと声をかけていただきました。「春秋座に更なる活気を与えてほしい」「若いプロデューサーを育ててほしい」という要請でした。自ら去っていった人間に声をかけてくださった寛大さに感激し、再び京都に戻らせていただく決心を致しました。

劇場はまさしく激場です。いろいろなジャンルの催し物があるのを削り、いつも活気を呈している空間であることが必須条件です。そして数多くの人が劇場にやって来て、学生に刺激を与えてくれる場にしなければなりません。芸術監督の毛利臣男先生、舞台芸術研究センター所長代りの渡邊守章先生と力を合わせ、大学の中に建てられた劇場の特色をわきまえながら、春秋座の活性化を図りたいと決意しております。どうぞこれからも春秋座をよろしくお願い申し上げます。



劇場企画運営室長
橋 市郎

日時	催し物・会場	チケット販売	チケット取り扱い
7月 5日(土) 14:00	みやこで義太夫を楽しむ 『近頃河原の達引』より「堀川猿廻しの段」 <i>inside</i>	【発売中】 前売：一般 3,000円 学生&ユース 1,000円 京都芸術劇場友の会 2,700円 ※当日は各500円増し ※全席指定	□京都芸術劇場チケットセンター □チケットぴあ TEL.0570-02-9999 Pコード 385-953
6日(日) 12:30 7日(月) 19:30 8日(火) 18:00	《朗読オラトリオ》 ポール・クローデル=作 渡邊 守章=訳・構成・演出 縞子の靴 あるいは最悪かならずしも定かならず —四日間のスペイン芝居—(抄) <i>cover</i>	【発売中】 前売：一般 3,000円 シニア 2,500円 学生&ユース 2,000円 京都芸術劇場友の会 2,500円 ※当日は各500円増し ※全席指定	□京都芸術劇場チケットセンター □チケットぴあ TEL.0570-02-9999 Pコード 386-933
7日(月) 16:20	公開連続講座「日本芸能史」 【前期】第12回 淡路人形浄瑠璃 淡路人形座	公開授業 前期 10,000円	□京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL.075-791-9124(平日9時-17時/土曜9時-16時) ※後期は10月6日から始まります。
19日(土) 14:00	第7回 響きeyeコンサート <i>inside</i>	【発売中】 一般 500円 小学生 300円 小学生以下 無料 和太鼓会員 一般 400円 小学生 200円 ※会員価格は和太鼓教育センターのみの取り扱い ※全席自由	□京都芸術劇場チケットセンター □和太鼓教育センター TEL.075-791-9145
9月 13日(土) 14:00	幻のバリ舞踊とガムラン ジョグット・ピンギタン ～最後のレゴン～ ニ・クトウト・チュニック <i>inside</i>	【6/25(水)発売開始】 一般 3,500円 シニア 3,000円 学生&ユース席(範囲指定あり) 1,000円 京都芸術劇場友の会 3,000円 ※全席指定 ※学生&ユース席は京都芸術劇場チケットセンターのみの取り扱い	□京都芸術劇場チケットセンター □チケットぴあ TEL.0570-02-9999 Pコード 387-546 □KBS京都ブレイクガイド TEL.075-431-8300(10-17時 ※月・祝除く) □京都新聞文化センター(京都新聞社1F) TEL.075-256-0007(窓口のみ/10-17時 ※土・日・祝除く)
17日(水) 14:00	日本伝統芸能振興会関西支部・歌舞伎公演 『かな手本忠臣蔵』 <i>inside</i>	【6/17(火)発売開始】 前売：一般 S席 4,500円 一般 A席 4,000円 学生&ユース席(範囲指定あり) 2,000円 京都芸術劇場友の会 S席 4,050円 A席 3,600円 ※当日は各500円増し ※全席指定 ※学生&ユース席は京都芸術劇場チケットセンターのみの取り扱い その他のプレイガイドで購入される場合、学生は一般S・A席いずれも1,000円引	□京都芸術劇場チケットセンター □NPO法人日本伝統芸能振興会関西支部 TEL.06-6574-6911 □チケットぴあ TEL.0570-02-9999(演劇専用)
19日(金)～21日(日) 予定 時間帯未定	ディクテ <i>inside</i>	未定 ※決定し次第、ホームページ(www.k-pac.org/)に掲載します	□京都芸術劇場チケットセンター
23日(火・祝) 14:00	上方和事研究会 シンポジウム+実験上演 『元禄期初代坂田藤十郎の 和事舞台復活』 <i>inside</i>	【6月23(月)発売開始】 一般 1,000円	□京都芸術劇場チケットセンター □チケットぴあ TEL.0570-02-9999

その他の会場

7月19日(土)～21日(月・祝) 13:00～17:00 ※21日は15時より一般公開演奏 場所：京都造形芸術大学内	音のワークショップ ジョン・ケージの 「カートリッジ・ミュージック」	11月に春秋座で開催するコンサート「John Cage Countdown Event 2008」 に先駆けたワークショップを開催。ケージの楽譜を読み解くレクチャーや音を 創作する過程を楽しむ。	講師：村井啓哲 ニシジマ・アツシ (サウンド・アーティスト) 定員：32名(先着順) 参加費：1,000円(実費) 問合せ先：京都芸術劇場チケットセンター
--	--	---	--

*特に標記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースとは、25歳以下対象 *シニアとは、60歳以上対象 *京都芸術劇場友の会割引は劇場窓口のみ取り扱い *学生・ユース・シニアは要身分証明書
cover・*inside*は、表紙または中面に詳細が掲載されています。 春 春秋座公演 S studio 21公演

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel. 075 791 8240

営業：平日10:00～17:00 公演開催日

京都造形芸術大学 京都芸術劇場
春秋座・studio 21

606 8271 京都市左京区北白川瓜生山 2 116

tel. 075 791 9207 fax 075 791 9438

http://www.k-pac.org/

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

tel. 075 791 9437

※住所・ファックス番号・URLは京都芸術劇場と同上



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
 - 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
 - 京阪電鉄出町柳駅から
叡山電鉄に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分
- ※駐車場はございませんので、お車・バイクのご来場は
お断りします。